

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：23902

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00213

研究課題名（和文）1970年代の日本美術における音——「日本美術サウンドアーカイヴ」の実践

研究課題名（英文）Sound in Japanese art in the 1970s: The practice of Japanese Art Sound Archive

研究代表者

金子 智太郎（Kaneko, Tomotaro）

愛知県立芸術大学・美術学部・准教授

研究者番号：20572770

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：戦後日本美術における音をめぐる本研究は、一次資料の調査にもとづく発見的なアーカイヴであり、研究成果として展覧会の開催と論考の執筆を行う。新型コロナウイルス感染症の広がりのために計画の変更を余儀なくされたものの、1970年代に美術家が音をいかに表現に取り入れたのかを網羅的に明らかにした。さらに個別事例の集積を元にして、この時代の美術家が取り組んだ、芸術と社会の諸制度をめぐる批判的実践と、音の関わりを理解していくための道筋を示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

前衛とポストモダニズムに挟まれた1970年代の美術は、近年ようやく美術史の研究対象になりつつある。本研究はこの時代の音を実際に聞き、保存することを通じて、戦後美術史や芸術における音の研究の不足を補い、その重要性を世界に発信する契機になった。本研究を通じて得られた理解はこの時代の芸術と社会の動向をめぐる議論の見直しに資するだろう。さらに、一次資料調査、展覧会、論考の執筆を組み合わせた独自の方法の提示という点でも意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study on sound in postwar Japanese art is a heuristic archive based on a survey of primary sources, and the findings are presented through exhibitions and research papers. Although the study plan was changed due to the spread of COVID-19, it still comprehensively clarified how artists incorporated sound into their works in the 1970s. Furthermore, by collecting individual cases, it opens a path toward understanding the relationship between sound and the critical practices that artists of this period are engaged in relating to various institutions of art and society.

研究分野：美学

キーワード：美術における音 戦後日本美術 アーカイヴ 音響技術 サウンド・アート サウンド・スタディーズ

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

音を主要な媒体とする芸術「サウンド・アート」は、2000年代より大規模な国際展が開催されるようになり、現在はひとつの手法としても広く共有されている。この動向は、同時期にさかんになった音をめぐる学際的研究領域「サウンド・スタディーズ」と結びつき、さまざまな芸術ジャンルにおける過去の音への見直しを促した。これまで日本のサウンド・アートをめぐる研究は主に現代音楽の文脈に目を向けてきた。他方、美術館やギャラリーが重要な作品発表の場であるにもかかわらず、美術における音の歴史研究は個別断片的なものに留まっていた。

2. 研究の目的

これまで日本美術における音の研究が進まなかった理由の一つは、美術史が一般的に視覚資料を中心とするため、音の記録を扱う制度体系が整っていないことにある。そこで、本申請者は2017年より、1970年代に音と関わる作品を発表した美術家に実際に作品を再制作してもらい、それを再展示し、記録を共有するプロジェクト「日本美術サウンドアーカイヴ」を主宰してきた。本研究はこのプロジェクトを推進させるだけでなく、実践を通じて得た知見にもとづいて、この時代の日本美術の固有性や美術と社会との関わりについて、音という視点からあらためて考察する。

3. 研究の方法

本研究はまず、過去の雑誌記事や展覧会記録などから1970年代の日本美術から音と関わる作品に関する情報を探します。こうした作品の詳しい記録は多くが公開されていないため、その作品を発表した美術家に詳細を伺い、残された一次資料を調査する。そして、美術家に作品の再制作を依頼し、実際にその作品を再展示するとともに、記録を作成して共有する。この過程において美術家だけでなく、美術家やギャラリーと共同作業をすることもある。展覧会やイベントを開催するさいは論考を執筆して発表する。また、こうした実践から得られた理解を元に、あらためて当時の美術批評や美術史を再検討し、同時代の日本美術のありかたを考察する。

4. 研究成果

新型コロナウイルス感染症の広がりのために計画の変更を余儀なくされたものの、本研究が開催した展覧会・イベントと、制作を通じて関わった展覧会は次のとおりである。

- ・ 「日本美術サウンドアーカイヴ協力 倉重光則《1974年の七つのパフォーマンス(再現)》2020年」横須賀美術館「倉重光則+天野純治展 ミニマリズムのゆくえ」2020年11月14日～12月25日。
- ・ 「日本美術サウンドアーカイヴ 柴田雅子《AFFECT-GREEN Performance》1976年」北千住BUoY、2021年2月11日。
- ・ 「日本美術サウンドアーカイヴ協力 河口龍夫《345600秒》2021年」河口龍夫「1971年の172800秒から2021年の345600秒へ」SNOW Contemporary、2021年4月23日～5月22日。
- ・ 「日本美術サウンドアーカイヴ 上田佳世子、渡辺恵利世《トートロジー》1973年」北千住BUoY、2022年6月23日～26日。
- ・ 「日本美術サウンドアーカイヴ リーディングセッション」港まちポットラックビル、2023年8月18日。
- ・ デッド・プランツ・アンド・リビング・オブジェクト(ピエール・ベルテ、中島吏英)「海

賊船パフォーマンス」自由工房海賊船、2023年12月16日。

「日本美術サウンドアーカイヴ」が関わった企画においてはいずれも論考を執筆した。本研究は他にも、藤原和通、ぶろだくしょん我 S、野村仁をめぐる論考を発表した。美術雑誌『あいだ』に寄稿した「1970年代の日本美術における音」(2022年)は、本研究がそれまでの調査を通じて検討してきたこの時代の美術の特徴のまとめであり、これからの考察の素描でもある。

本研究が「1970年代の日本美術における音」において検討したのは、当時の美術家が関心をもった、美術と社会の制度をめぐる実践と、音がいかに結びついていたのかである。学生運動の時期を経験した若手美術家は、60年代のように美術と社会の制度の外を目指すのでも、80年代のように制度を多様化させるのでもなく、制度の境界に留まり、境界のありかたを問い続けた。こうした実践のために印刷、写真、映画、ビデオなどの複製技術がよく活用された。なかでも録音はその機能だけでなく社会的、芸術的位置づけという点でも、この実践に適していたと考えられる。しかし、70年代後半以降の社会と美術の制度の転換にともない、70年代に音を表現に取り入れた美術家の一部は伝統的な形式に回帰し、一部は美術を離れていった。

本研究は成果の国際的発信にも力を入れた。新型コロナウイルス感染症の影響から、海外での展覧会は実現できなかったが、ニューヨークを拠点としたオンラインシンポジウムシリーズ「Interrogating Ecology: 1970s Media and Art in Japan」(2021年)、ソウル私立美術館アートアーカイヴが主催したシンポジウム「Lost, But Archived」(2023年)への参加を実現させ、国際共同研究の企画などの展開に道筋をつけた。また、1970年代の日本美術における音の背景となる同時代の日本の音文化に関する調査にも一定の進展があり、成果を国内・海外の包括的なアンソロジーや、編著を担当したブックガイドを通じて発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 金子智太郎	4. 巻 261
2. 論文標題 1970年代の日本美術における音	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 あいだ	6. 最初と最後の頁 2-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子智太郎	4. 巻 47
2. 論文標題 「ぶろだくしょん我S」と自主制作メディア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 REAR	6. 最初と最後の頁 19-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KANEKO Tomotaro	4. 巻 23-24
2. 論文標題 Namaroku culture in 1970s Japan: The techniques and joy of sound recording	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Aesthetics (The Japanese Society for Aesthetics)	6. 最初と最後の頁 60-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 3件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Kaneko Tomotaro
2. 発表標題 Reproducing and sharing "Lost" sound works: the case of Japanese Art Sound Archive
3. 学会等名 "Lost, But Archived", The Art Archives, Seoul Museum of Art (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kaneko Tomotaro
2. 発表標題 Home Exhibition as an Institutional critique: Ueda Kayoko and Watanabe Erize 's Tautology Series
3. 学会等名 Interrogating Ecology: 1970s Media and Art in Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomotaro Kaneko
2. 発表標題 Reproducing and sharing "Lost" sound works: the case of Japanese Art Sound Archive
3. 学会等名 "Lost, But Archived", The Art Archives, Seoul Museum of Art (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 Iris Haukamp, Christin Hoene and Martyn David Smith eds.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 310
3. 書名 Asian Sound Cultures: Voice, Noise, Sound, Technology	

1. 著者名 細川周平編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 アルテスパブリッシング	5. 総ページ数 636
3. 書名 音と耳から考える 歴史・身体・テクノロジー	

1. 著者名 河口龍夫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 SNOW Contemporary	5. 総ページ数 47
3. 書名 Tatsuo Kawaguchi From 172800 Seconds in 1971 to 345600 Seconds in 2021	

1. 著者名 Claudia Tittel, Anne Zeitz, eds.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Kehrer Verlag Heidelberg	5. 総ページ数 253
3. 書名 Polyphone: Mehrstimmigkeit in Bild und Ton	

1. 著者名 美学会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 768
3. 書名 美学の事典	

1. 著者名 倉重光則	4. 発行年 2020年
2. 出版社 横須賀美術館	5. 総ページ数 48
3. 書名 倉重光則 + 天野純治展 ミニマリズムのゆくえ 倉重光則	

1. 著者名 藤原和通	4. 発行年 2021年
2. 出版社 おふね舎	5. 総ページ数 157
3. 書名 藤原和通 1970-1974 [音響標定]	

1. 著者名 金子智太郎編著	4. 発行年 2024年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 音の本を読もう 音と芸術をめぐるブックガイド	

1. 著者名 Bernd Herzogenrath ed.	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Bloomsbury Publishing	5. 総ページ数 168
3. 書名 Sound Word Almanac	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>金子智太郎 https://tomotarokaneko.com/ 日本美術サウンドアーカイヴ https://japanesearoundarchive.com/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------